

# 『ぼく、線路かきまーす!』 2歳児 4月

園庭で数人の子ども達が段ボールを電車に見立てて電車ごっこをして遊び始めました。そこで、保育者が足で地面に線路をかいていくと、その上を嬉しそうに歩いていました。

最初は1人ずつ段ボールの電車に入っていました。保育者を誘ったり子ども同士2~3人で一つの段ボールに入ったりして数人で電車ごっこをしていました。

すると、A児が「ぼくも乗りたい」と言って来たので「Aくんも電車乗りたいんだって」とB児・C児に伝えました。B児が「いいよー」と言ってA児・B児・C児の3人で電車ごっこをしばらく楽しんでいました。線路の上を何周か通るとA児は電車から降りました。



その後も電車ごっこを続けている子達が線路の上を歩いていくと、徐々に線が消えていきました。保育者がかき直そうと思うと、A児が足で消えた線路をかき始めていました。保育者が「Aくん、線路かいてくれるの?消えてきたから先生かこうと思ってん」と声を掛けると、「ぼく、線路かきまーす!」と言って線路をかき進めていきました。「ありがとう。そしたらAくんに任せるね。お願いします」と声を掛けると、目線は地面に向けたまま小さくうなずき夢中になってかいていました。

友達の電車が来ると一度中断しましたが、通り過ぎると再び線路をかいていました。

## 保育者の思い

- ・電車ごっこという遊びを通して、自分で電車を動かすことを楽しんだり、保育者や友達とも一緒にしたりできればいいなと思いました。
- ・より楽しい雰囲気になりたいと思い、「ガタンゴトン…」と言ったり「線路はつづくよどこまでも」を歌ったりして保育者も一緒に楽しみました。
- ・「ぼく、線路かきまーす!」というA児の言葉や線路をかく姿を見て、電車ごっこという遊びの中にも線路をかくという楽しさを感じているんだなと思いました。

## 子どもの育ちや学び

- ・線路をつくるには、足で線を引くことができることを**保育者の姿を見て気付いています。**
- ・電車ごっこをするための**環境(場)を自分でつくり直しています。**

よく見る “先生線路かいてる”

↓  
気付き “線路はああやってかくんだな”

↓  
実践 “ぼくも先生みたいに線路をかいてみよう!”

## 家庭だったら・・・

- ・“きっとこれを楽しむだろう”と思っていたことと違うことを楽しんでいるということはないでしょうか? 子どもが“やってみたい!楽しい!”と思うポイントはそれぞれです。その楽しいと思うポイントを一緒に楽しんでみてくださいね。
- ・子どもはよく周りの大人を見ています。“こういう時はあんな風にするんだな”と見て気付いたり学んだりしています。全て言葉で教えるのではなく、見て学ぶ力も育てていけるといいですね。